

新宿
岩槻

 2025 年 1 月 28 日開催
2025 年 1 月 30 日開催
目白大学学生評価委員会

2024（令和6）年度 学生評価委員会 報告書

目白大学

目次

1. 本学の内部質保証と学生評価委員会について（趣旨）	2
2. 第2期学生評価委員会委員	3
3. 学生評価委員会の設置、役割について（関連規程）	3
4. 2024年度学生評価委員会活動概要	4
5. 事前活動	4
5-1. アンケート概要	4
5-2. テーマの確定	4
6. 新宿キャンパス委員会会議	5
6-1. 会議概要	5
6-2. 会議の流れ	5
6-3. 【テーマ】学生が求める「教養科目」について（提案まとめ）	5
6-4. 新宿キャンパスの学生評価委員会の提案によせて	9
6-5. 新宿キャンパス当日の様子	9
7. さいたま岩槻キャンパス委員会会議	10
7-1. 会議概要	10
7-2. 会議の流れ	10
7-3. 【テーマ】学生が求める「教養科目」について（提案まとめ）	11
7-4. さいたま岩槻キャンパスの学生評価委員会からの提案によせて	15
7-5. さいたま岩槻キャンパス当日の様子	15
8. 今後の対応について	16
9. 【総括】2024年度（令和6年度）第2回学生評価委員会の活動によせて	16

1. 本学の内部質保証と学生評価委員会について（趣旨）

本学の「教育の質の保証」については、1994年の開学当時より、体制を整備し、高等教育機関として質の向上に努めて参りました。2006年4月には、目白大学・目白大学短期大学部における自己点検・評価及び第三者評価等に関する規則を制定し、自己点検・評価等実施部会、第三者評価結果等検証部会及び短期大学部自己点検・評価等部会を設置し、組織的な教育活動の自己点検の体制強化を行いました。

2020年4月には、当該規則の改正、並びに目白大学・目白大学短期大学部における内部質保証に関する規程を新たに制定し、上記3部会を統合して、学長のリーダーシップのもと、評価・改善等を策定する委員会として、『内部質保証委員会』を設置し、大学における自主的な質保証への取組（内部質保証）体制を整えました。

『学生評価委員会』は、2023年4月に改正した「目白大学・目白大学短期大学部における内部質保証に関する規程」第4条3及び第11条により、在学生から意見を得ながら、教育活動等の充実と向上、改善を促進するために設置された組織であり、本学の内部質保証体制の強化と学生が大学での学びにより自らが成長を実感する場＝「学修者本位の大学」の創出を目的としています。

内部質保証推進体制（関連規程）

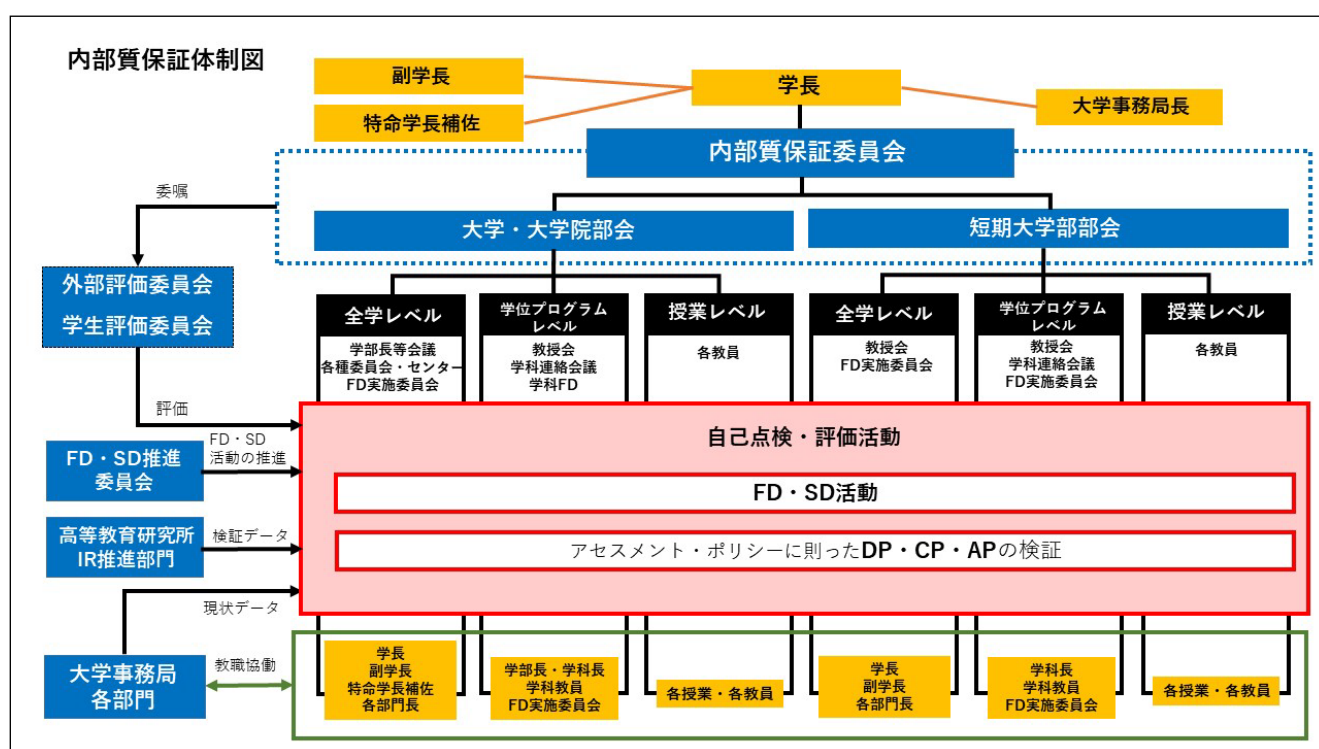
（目白大学・目白大学短期大学部における内部質保証に関する規程第4条）

（推進体制）

第4条 学長は、前条に定める方針に従い内部質保証を推進するため、以下の組織を置く。

- （1）大学全体として内部質保証の推進に責任を負う組織として内部質保証委員会（以下「本委員会」という。）を置く。
- （2）自己点検・評価活動に基づく全学的な観点からの改善を推進するため、本委員会に部会を置く。
- （3）本学の内部質保証について、本学関係者及び外部有識者から意見を得ながら、教育研究活動等の充実と向上、改善を進めるため、外部評価委員会及び、学生評価委員会を置く。

図）目白大学内部質保証の体制図



2. 第2期学生評価委員会委員

委員の選出にあたっては、各学科からの推薦と新宿キャンパスは学生課からの推薦を受け、学長より委員として委嘱された。

■新宿キャンパス

学科	学年
心理カウンセリング学科	3
心理カウンセリング学科	3
人間福祉学科	1
人間福祉学科	2
人間福祉学科	3
子ども学科	1
児童教育学科	1
児童教育学科	2
社会情報学科	3
地域社会学科	2
地域社会学科	2

学科	学年
地域社会学科	3
メディア学科	3
メディア学科	3
経営学科	2
経営学科	3
英米語学科	1
中国語学科	2
韓国語学科	3
韓国語学科	3
日本語・日本語教育学科	2
日本語・日本語教育学科	2

以上 22 名

■さいたま岩槻キャンパス

学科	学年
理学療法学科	1
理学療法学科	1
理学療法学科	2
作業療法学科	1
作業療法学科	1
言語聴覚学科	1

学科	学年
言語聴覚学科	2
看護学科	1
看護学科	1
看護学科	2
看護学科	2

以上 11 名

3. 学生評価委員会の設置、役割について（関連規程）

（目白大学・目白大学短期大学部における内部質保証に関する規程第 11 条、第 14 条、第 15 条）

（外部評価委員会・学生評価委員会）

第 1 1 条 外部評価委員会及び学生評価委員会は、次に掲げる各号について、意見を聴取し、改善計画の策定に反映させるために開催する。

- （1）卒業認定・学位授与の方針（D P）、教育課程編成・実施の方針（C P）、入学者の受け入れの方針（A P）の各方針に基づく教育活動の評価及び改善に関する事項
- （2）その他本学の教育研究活動等全般に関する事項

（学生評価委員会の構成等）

第 1 4 条 学生評価委員会は、本学に在学する学生若干名で構成する。

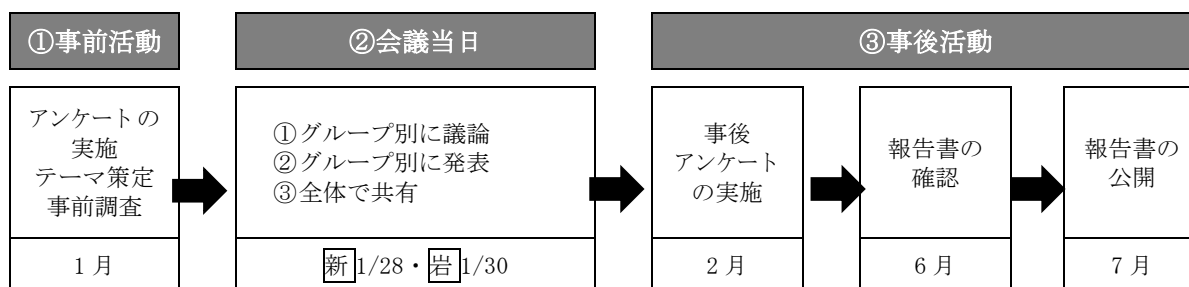
- 2 委員は学科もしくは大学事務局からの推薦に基づき、学長が委嘱する。
- 3 学生評価委員会に委員長を置き、学長が指名する。
- 4 委員会には、学長が必要と認めるときは、委員以外の者を陪席させることができる。
- 5 意見の聴取にあたっては、委員会を開催する。ただし、個別に意見聴取を行うことをもって、委員会を開催したとみなすことができる。
- 6 学生評価委員会の庶務は、大学事務局大学企画室が行う。

（学生評価委員の任期）

第 1 5 条 学生評価委員は、開催する委員会ごとに選任する。

4. 2024 年度学生評価委員会活動概要

学生評価委員会は、①事前活動でテーマに関するアンケート調査、②対面でグループ別にテーマに沿った各自の意見、提案のアイデアを出し合った後に、まずグループ内で学長、副学長等のテーマに沿った関係者へ発表と質疑応答。その後、グループごとに提案をまとめ、全体で発表して共有した。③事後活動はアンケートにより補足意見で回収し、報告書としてまとめた後、「報告書」と大学からの「回答書」を学生評価委員及び全学生へフィードバックした。以下、事前活動を始め、それぞれの活動について報告します。



5. 事前活動

学生評価委員会では事前に内部質保証委員会で設定したアンケートを事前に行い、結果からテーマを絞り込むこととした。事前アンケート概要は下記の通りである。

5-1. アンケート概要

Q1) 大学発の情報提供ツールについて【キャンパス共通】

<質問>

- ① 学生ネットサービスの活用
- ② 教務関係ポータルサービスの活用
- ③ メールサービスの活用
- ④ 記憶に残りやすい、もしくはすぐに情報を参照しやすいツールはなんですか
- ⑤ 現在の大学からの情報提供ツールに関する提案

Q2) 共通科目について【キャンパス共通】

<質問>

- ① 履修した共通科目を教えてください。
- ② 印象深い共通科目、受講して特にためになった、もしくは受講してよかったと感じている共通科目についてお聞かせください。
- ③ 大学にどのような共通科目が開講されたら良いと思いますか

Q3) BYODの状況について【キャンパス共通】

<質問>

- ① 自分のパソコンを授業内で使った科目の数を教えてください？
- ② 一週間のうち何日自分のパソコンを大学に持っていききましたか
- ③ 大学で自分のパソコンを持ってきていてよかったと感じるのはどのような時ですか
- ④ 自分のパソコンを使った大学の授業で良かったと思う取り組みを教えてください
- ⑤ 自分のパソコンは授業や研究に十分役立っていますか？大学の授業にマッチしたパソコンはどの程度のもっとだと考えるか、理由もあわせて教えてください。

5-2. テーマの確定

各キャンパスのアンケート結果から、(2) 共通科目（教養科目）をテーマにし、

- ・共通科目における授業運営の見直し
- ・共通科目における授業内容の見直し
- ・新しい共通科目の開設

等に活用することを目的として委員会を開催した。

6. 新宿キャンパス委員会会議

6-1. 会議概要

■新宿キャンパス

開催日	2025 年 1 月 28 日（火）
時間	10：00～16：00
場所	目白大学新宿 10 号館 10301 番教室・10302 番教室
学生評価委員出席者	学生 18 名
大学出席者	学長、副学長、特命学長補佐、学務部長（教務担当）、事務局長、教務部長（計 10 名）
ファシリテーターサポート等	高等教育研究所スタッフ、大学企画室スタッフ、障がい学生等支援室スタッフ（計 8 名）

6-2. 会議の流れ

冒頭、前回の委員会の改善提案について土井副学長より状況の報告があった。

続いて、学生を 4～5 名で構成する 5 つのグループに編成した。多くの学生にとっては初対面であったため、アイスブレイクを通じて互いにコミュニケーションを図ったうえで、午前中は各自の体験をもとに、学生視点での共通科目の課題、改善してほしい点などについて意見交換を行い、提案に向けて意見をまとめた。

午後は各グループに大学側出席者が分散して加わり、学生の提案に耳を傾けながら質疑応答を通じて議論を深めた。

最後に全体発表の場において、各チームが議論の成果を発表した。

6-3. 【テーマ】学生が求める「教養科目」について（提案まとめ）

学生のグループ内発表、最終発表、事後アンケートの内容をもとに、学生評価委員から、これまでの学修経験を踏まえた多様な意見や提案が寄せられた。以下では、それらの内容を「授業内容」、「新設科目」、「授業方法・授業運営」の 3 つの観点に分けて報告する。

1) 授業内容

学生のこれまでの学修経験を踏まえ、実社会とのつながりを意識した科目や、実践的な内容の充実を求める声が多く寄せられた。また、「身についた」と実感できる学修成果を得られる授業への要望や、発表や研究に活用できる PC スキルを継続的に学べるよう、2 年次・3 年次においても教養科目としての開講を求める意見があった。あわせて、各科目の配当学年のあり方を再検討してほしいとの提案も見られた。具体的な提案は以下の通りである。

①社会・実生活とつながる内容

提案：生涯役立つ社会や実生活とつながる内容や専門への接続が感じられる授業

理由（学生の声）：

- ・「お金とつきあう」は検定取得や実生活に応用できる内容で将来役に立つ
- ・英語は「日常生活と結びついた内容があった方がよい」という意見が多い
- ・「現代教育入門」は専門につながる学びであった
- ・社会人になった後も役立つ実務的スキルを身につける内容を学びたい

②実践的で、スキルが「身についた」と感じられる内容

提案：情報活用演習や外国語などは、実践と定着を重視した設計とし、内容の深度や応用を段階的に高めること。

理由（学生の声）：

- ・「情報活用演習」はパソコンが苦手でも安心できたという学生もいるが、「指示された作業をなぞるだけ」「定着感がない」との意見があり、習熟度別のクラス分け望む声がある
- ・「情報活用演習」でプログラミングの授業は卒業後を考えると必須ではないと感じる学生が多い
- ・IT パスポートなどの資格に直結する内容がほしい、発表資料やアンケート集計などと結びつけてほしいなど、より実務的な内容を求める意見が多い
- ・「英語」は日常生活やコミュニケーションに活かせる内容にしてほしい
- ・資格の取得や検定合格を目指す科目を開講してほしい

③配当年次や開講時期の適正化と2年生以降も継続的に学べる機会

提案：授業の難易度に応じた配当年次の検討。また情報・ICT スキルの拡充と継続的な履修機会の創出

理由（学生の声）：

- ・「国語」や「情報」で3年次のゼミ等での発表資料の作成やアンケートの集計といった実践的な授業によって、課題の対応することでアウトプットができ、学びの定着ができる
- ・現在の就職活動を見越した「キャリア科目」の開講（3年秋のキャリア科目は就職活動には遅い）
- ・科目によっては1年生には非常に難しい授業がある

2) 新設科目の提案

新たに開講してほしい科目については、社会で役立つ政界情勢やマナーに関する科目、最新技術に触れることができる授業、体験型・実践型の学びを取り入れた授業、さらに資格取得に向けた対策授業など、具体的かつ実用性の高い提案が寄せられた。

①社会でも役に立つ実用的な常識を学べる科目

提案：社会人として必要な一般常識（時事、政治、経済、マナー、敬語等）を扱う科目の充実

理由（学生の声）：

- ・「世界の今を学ぼう」では時事問題や面接に役立つ知識が得られた
- ・戦争や政治・選挙に関する教養科目の開講は、日本人として必要な教養であり、若者の投票率の低さへの対策にもなる
- ・「株・投資」や「ビジネスマナー」など、実用的・就職直結型の授業を希望
- ・ベーシックセミナーで触れたメールの書き方や社会人マナーを、もっと詳しく学びたい
- ・実社会で役立つ「敬語」を学ぶ機会をつくる

②現代の技術に触れる実技体験型科目

提案：AI や VR などの最新技術を体験できる授業

理由（学生の声）：

- ・最新技術を通して、現代的教養を得たい

③他学科学生と協働する体験型科目でコミュニケーション力の向上や自己理解の深化

提案：オープンキャンパスなどの大学活動を授業の一部として活用し、学科横断的な実践の場とする

理由（学生の声）：

- ・オープンキャンパスを授業として活用することは、自分の学びを振り返る良い機会になった
- ・メディア学科の動画制作技術、英米語学科の翻訳力、児童教育学科の伝え方などを活かしながら授業を行うことで他学科との連携が可能になる
- ・「目白大学の良さ」を伝えるプロセスで、自身の学びを見つめ直す機会になった
- ・リーダーシップを養う授業

④多様性の理解や多文化の理解を深める科目

提案：留学生や障がい者と実際に関わる授業の開設

理由（学生の声）

- ・NEXT（留学生チューター制度）、障がい学生支援（ノートテイカー）の存在を知らないの
で、授業内で知る機会をつくる
- ・“コミュニケーション”に特化した教養科目開講、なかでも留学生や障がい者と関わる授業
- ・多様性の時代に合致した様々な人と関わる授業

⑤資格取得・検定合格に向けた対策授業から実用的なスキルを身につける

提案：実用的な資格や検定対策の科目の開講

理由（学生の声）

- ・秘書検定やTOEIC対策など、実用的で就職に直結する内容の科目
- ・ITパスポート等に直結する科目

⑥読書学/リーディング・スキル講座

提案：学術的文章の読み方、要約、批評の書き方を学ぶ授業

理由（学生の声）：

- ・社会学概説で社会学の名著を授業で読み解いた

⑦「哲学」の授業

提案：大学の教養の本質、学問の原点として「哲学」を学ぶ機会

理由（学生の声）

- ・思考力を鍛える、生きる意味を考える授業

3) 授業方法・授業運営に関して

共通科目については、全学科共通である利点を生かし、他学科の学生との交流やグループワークを通じた学びの定着を求める声が多く寄せられた。また、同一科目における教員間の指導内容や評価基準の統一、授業目的や履修前説明の明確化、授業後のフィードバックの充実など、授業運営の改善に関する意見もみられた。さらに、教員間の連携や相互チェック、オンデマンド授業の特性を生かす工夫など、具体的な提案が寄せられている。以下にその内容と理由を示す。

①フィードバックの充実から、学びの定着と理解を深める

提案：課題提出後、グループワークやディスカッション後に教員から丁寧なフィードバックを行う仕組みの構築

理由：

- ・フィードバックがあるとモチベーションが上がる、「フィードバックがないと効果が薄い」という意見が多くあった
- ・オンデマンド型の授業でもフィードバックがある授業は好評であった
- ・課題に対し、フィードバックがないと出来栄えた方向性に不安が残るとの意見があった
- ・最終レポートでどのような観点で評価されているのか分からない
- ・成績評価の観点が明確でないため、不安が残る

②グループワークなど多様な交流と協働の機会を設け、コミュニケーション力の向上を図る

提案：学科横断や学年横断、グループ活動を取り入れ、学生同士の交流を促す

理由（学生の声）：

- ・ベーシックセミナーでのグループワークは好評であり、学生同士の交流のある授業への肯定的な意見が多かった
- ・グループワークは他人の考えを知る機会となり、「多様性の理解」が実感できた

③初めて学ぶ分野や異分野への配慮がある導入設計により興味の喚起を図る

提案：異分野科目や初年次の内容は、導入段階において「なぜ学ぶか」を明確に伝える

理由（学生の声）：

- ・異分野入門科目は、あまりにも異分野だと興味が持てないまま終わることがある
- ・異分野を学ぶ意義が分からない

④複数開講の同一科目やオムニバス科目は教員連携による統一性と一貫性の確保から安心感と学びを深める

提案：複数開講の科目やオムニバス形式の授業は、内容の統一性確保と教員の連携を強化する

理由（学生の声）：

- ・同じ科目でも、担当教員によって、授業内容、進め方、課題の量、評価基準が異なっている
- ・教科書を指定されているのに、使わない授業がある
- ・オムニバス形式の授業は授業内容のつながりがない

⑤学習レベルに応じたクラス編成による効果的なスキルアップ

提案：「情報活用演習」は習熟度別にクラスを編成する

理由（学生の声）

- ・「情報活用演習Ⅰ」はパソコンが苦手でも初歩から学べる聞きやすい雰囲気です実用的な内容であったという意見もあるが、パソコンが得意な学生には「基本的すぎる」との意見がある。

⑥授業の目的や目標を明示することで、学びの見通しとモチベーションの向上を図る

提案：オリエンテーションや初回の授業で目的や目標を明確にし、科目の情報提供を充実させ、導入で学生の関心を引く工夫をする。さらに、毎授業ごとの学修目標を提示する

理由（学生の声）：

- ・必修で学ぶ「英語」「国語」の目的を明示してほしい
- ・授業開始時に「このような課題に対応できるようになってほしい」など学習目標を提示してほしい。
- ・分野横断科目は学びの意味や目的を伝えてほしい
- ・異分野入門科目は専門と異なる分野を学ぶため、興味を持たせるような授業運営にしてほしい
- ・第二外国語は履修前にどのような言語でどのような内容の授業になるのか、説明の機会を設けてほしい。
- ・教科書として指定したテキストの活用（購入したのに活用しない科目がある）

⑦シラバスの工夫と柔軟な授業選択による学びの見通しと目的意識の向上を図る

提案：シラバス内容の工夫と履修選択期間を長く設ける

理由（学生の声）：

- ・シラバスの情報量が多く、解りにくい。
- ・シラバスには授業スタイル（グループワーク有無など）についての記載をしてほしい
- ・授業科目の選択まで時間が少ない

⑧オンデマンド授業の効果的活用による主体的な学びの促進

提案：オンデマンド授業の教材の定期更新と視聴期間延長、教員との双方向コミュニケーション強化

理由（学生の声）：

- ・授業内容が古いものがあるので、アップデートしてほしい
- ・オンデマンド授業であってもフィードバックはモチベーション向上につながる
- ・オンデマンド授業は楽に単位が取れると考え、履修する傾向がある
- ・オンデマンド授業では、教員と直接的なやり取りができないため不安を感じる。

- ・動画の視聴期間が1日だけという科目がある、動画視聴期間を長くして復習に活用できるようにしてほしいと視聴期間に対する意見は多数あった
- ・学期終了後も動画を見返せるようにしてほしい

⑨教員による相互チェックによる授業の質向上

提案：教員による授業参観の実施

理由（学生の声）

- ・「ベーシックセミナー」、「専門とキャリア」は学科によって授業内容が異なるので、各学科でどのような内容なのか、情報共有する
- ・教員が工夫を凝らした授業は、学生の関心を高め、理解を深めるので、そのような授業を他の先生方にも知った貰いたい
- ・教員間での評価基準の差が大きい
- ・ネットで調べれば分かる内容は授業にふさわしくない

6-4. 新宿キャンパスの学生評価委員会の提案によせて

副学長 土井 正

共通科目は、2026年度にカリキュラム改訂を計画中です。今回の提案を聞いて、現行の教養科目の改善点があらためて明確になりました。

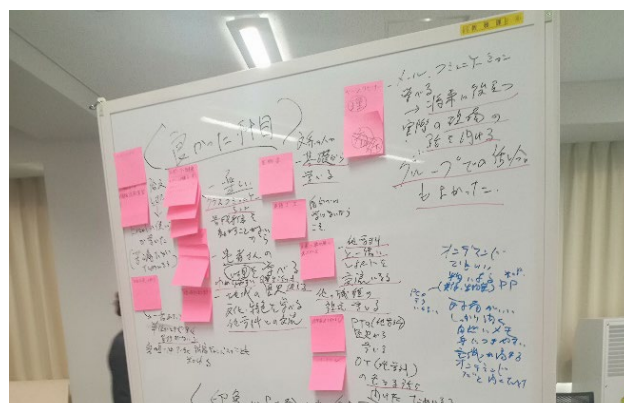
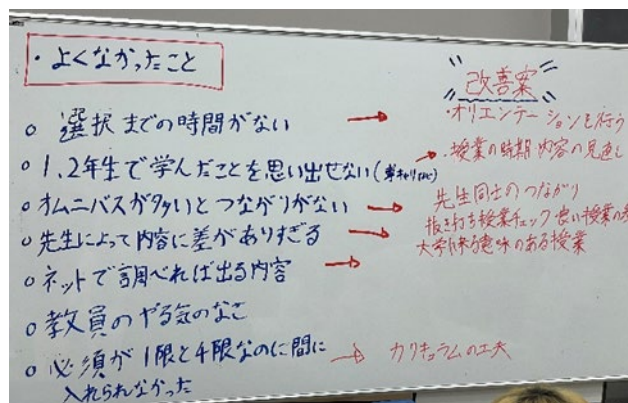
授業内容では、実社会との結びつきを重視し、実践的なスキル習得の強化が求められており、特に、PCスキルや英語など、学生が「身についた」と実感できるような内容の充実が期待されていることや、配当年次の適正化と継続的な学びの機会の提供が必要です。

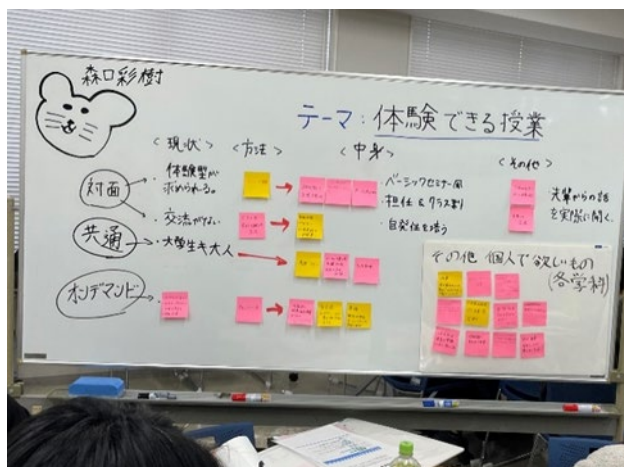
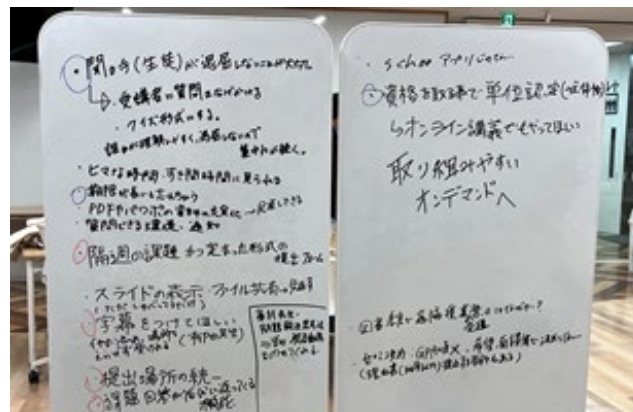
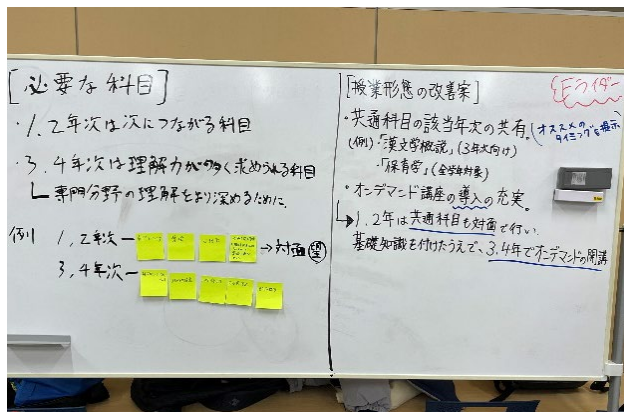
新たな科目の提案としては、政治や経済、ビジネスマナーなどの実用的な内容や、AIやVRといった最新技術に触れる体験型授業が挙げられています。これにより、学生は社会で必要とされるスキルを習得し、多様な視点を持つことができます。さらに、他学科との協働を通じた体験型授業は、異文化理解を深め、幅広い視野を養う機会を提供します。

授業方法や運営面では、フィードバックの充実が強調されており、丁寧な指導が学生の学びを深めるために不可欠です。グループワークや異分野交流を取り入れることで、コミュニケーション能力を高める工夫も求められています。また、授業の目的や目標を明示することで、学生のモチベーションを向上させることも重要です。

今回寄せられた提案は、学生のニーズに応える具体的かつ実用的なものであり、教育の質を向上させるための重要な指針となります。新カリキュラムには、学生の学びがより良いものとなるよう、ご意見やご提案を積極的に取り入れることをお約束します。

6-5. 新宿キャンパス当日の様子





7. さいたま岩槻キャンパス委員会会議

7-1. 会議概要

■新宿キャンパス

開催日	2025 年 1 月 30 日 (木)
時間	10 : 00 ~ 15 : 30
場所	目白大学さいたま岩槻キャンパス 5 号館 B206b 番教室
学生評価委員出席者	学生 10 名
大学出席者	学長、副学長、特命学長補佐、事務局次長、教務部長、教務課長 (計 8 名)
ファシリテーター サポート等	高等教育研究所スタッフ、大学企画室スタッフ (計 7 名)

7-2. 会議の流れ

冒頭、前回の委員会の改善提案について堤副学長より状況の報告があった。

続いて、学生を 4 名で構成する 3 つのグループに編成した。多くの学生にとっては初対面であったため、アイスブレイクを通じて互いにコミュニケーションを図ったうえで、午前中は各自の体験をもとに、学生視点での共通科目の課題、改善してほしい点などについて意見交換を行い、提案に向けた提案を検討した。

午後は各グループに大学側出席者が分散して加わり、学生の提案に耳を傾けながら質疑応答を通じて議論を深めた。

最後に全体発表の場において、各チームが議論の成果を発表した。

7-3. 【テーマ】学生が求める「教養科目」について（提案まとめ）

学生のグループ内発表、最終発表、事後アンケートの内容をもとに、学生評価委員から、これまでの学修経験を踏まえた多様な意見や提案が寄せられた。以下では、それらの内容を「授業内容」、「新設科目」、「授業方法・授業運営」の3つの観点に分けて報告する。

1) 授業内容について

学生のこれまでの学修経験を踏まえ、医療現場の実際に触れられる機会や、他学科の学生と協働する授業への高い評価が寄せられました。また、将来のキャリア形成を見据えた多職種理解や ICT・英語など実践的スキルの習得、フィールドワーク型の主体的な学びへの要望も多く挙がっています。具体的な提案は以下の通りである。

①医療現場の話からキャリア意識やモチベーションの向上

提案：外部講師による現場の話が聞ける機会を増やす

理由（学生の声）：

- ・「ベーシックセミナー」での外部講師から現場の話聞くことができ、実践的な知識が得られた

②学科横断型のグループワークから、多様な交流と協働の機会を設け、コミュニケーション力の向上を図る

提案：グループワークや学科横断型のグループワークを取り入れた授業を増やす

理由（学生の声）：

- ・「医療で読み解く現代社会」は他学科とグループワークを行い、少子高齢化等の現代の問題を学べた。また、他学科のことを学ぶ良い機会であった
- ・グループ活動や発表は成長を実感できた
- ・「地域社会と生きる」はグループで主体的に活動した授業で、現場に行き、他学科の学生と交流できたので印象深い

③医療に携わる多職種について学ぶ機会を設け、柔軟な対応力と実践力を培う

提案：医療にかかわる様々な職種について知る機会を設ける

理由（学生の声）：

- ・「理学療法を知る」、「看護を知る」は、興味があった専門以外の分野を学ぶことができた
- ・興味がある違う学科の内容を理解することで、多職種について知ることができた
- ・医療人になるという時の、医療に関連する多職種について、共通科目から色々と学べた
- ・「人間の作業」は他学科の分野を学べて非常にタメになった

④実地体験を伴うフィールドワーク型授業から主体性と行動力を育成する

提案：フィールドワーク型授業から実地体験を増やす

理由（学生の声）：

- ・「地域社会と生きる」で、実際に地域を歩き、レポートにまとめる活動が好評
- ・神社や飲食店を訪れ、他学科との交流ができた
- ・教員との対話や「自分の足で歩いて得た気づき」が印象深い
- ・「地域社会と生きる」は地域の人との交流があった

⑤授業の課題に直結する実践的な学びから基礎的スキルの向上

提案：レポート・論文作成、プレゼンテーションに直結する科目の拡充や実用的な ICT スキルの習得

理由（学生の声）：

- ・「統計学」や「情報活用演習」で Excel・ppt・Word を学べたことが役に立った
- ・「プレゼンテーション演習」はグループ活動や発表を通して成長を実感した

・Excel・Word・PowerPoint など、社会に出てすぐ使えるスキルを重点的に学びたい

⑦英語は医療現場で使える内容に焦点を当てる

提案：英語は医療現場で使える内容に焦点を当てる

理由（学生の声）：

- ・社会に出て医療従事者として働くための英語を学べたのが良かった

2) 新設科目の提案

新設科目としては、専門科目への橋渡しとなる導入科目の充実、医療制度や福祉に関する授業の拡充、多職種や他分野の視点に触れられる科目の開講が求められた。また、対人スキルやマナーを学ぶ授業、創作・表現活動を取り入れた科目、幅広い人文教養に触れる授業の提供も提案された。

①医療制度や医療・福祉に関して総合的に学べる科目

提案：医療制度について少しずつ学べる導入科目や医療、福祉、チーム医療などを学ぶ科目

理由（学生の声）：

- ・1年次春学期に「総合医療」を履修し、興味が沸いた内容について、1年後期以降にさらに深く学べるような科目を受講できるようにしてほしい
- ・医療制度（保険制度など）に関する科目を増やす、医療職に従事した際に必要な知識をもっと深く学べる科目が必要である
- ・福祉、チーム医療について（専門分野の周辺）

②対人関係力や生活スキルを育み他者とつながるための授業

提案：コミュニケーションを高める授業

理由（学生の声）：

- ・コミュニケーション力を高める授業
- ・教員と学生の“共に作る授業”
- ・オンラインで新宿キャンパスの学生や教員との交流の機会を設ける
- ・基礎的なマナー講座（对患者様）
- ・テーブルマナーやメールの書き方など、実生活や医療現場でも役立つ“生活スキル”を学べる授業

③人文・一般教養の授業

提案：歴史や地理など、広い視野を養う人文・教養系の授業の開講

理由（学生の声）：

- ・歴史や地理などの教養を学びたい
- ・専門以外の幅広い知識を身につけたい

④興味・関心に基づいた体験型の授業

提案：木工、陶芸、音楽等の手や体を動かして表現できる科目

理由（学生の声）：

- ・木工、陶芸、書道、音楽など、手を動かして表現する科目が「楽しい」「癒やされる」「アウトプットとして重要」と評価準備負担が少なく、気軽に参加できる
- ・韓国語の授業 K-POP やドラマ、旅行などを通じて親しみがあり、実用性を感じている

3) 授業方法・授業運営に関して

共通科目については、全学科共通である利点を生かし、他学科の学生との交流やグループワークグループワークを取り入れた主体的な学びの促進、カリキュラムの段階的構成や柔軟な履修への要望、科目の学ぶ意義の明示、履修説明の丁寧化、授業内容や評価基準の統一性の確保、習熟度別ク

ラス編成、BYODの活用促進、課題・試験の分散化など、多岐にわたる視点からの提案が含まれています。以下にその内容と理由を示す。

①グループワークやアクティブ・ラーニングによる主体的学びの促進

提案：双方向型の授業やグループワークを取り入れる

理由（学生の声）：

- ・「医療で読み解く現代社会」は、グループワークがあり、色々な学科の人と意見交換して新たな気づきがあってよかった
- ・「ベーシック 세미나」は、友達の輪が広がり、自分の考えも広がった
- ・他学科や他の学生とコミュニケーションが取れる
- ・一方的な講義形式ではなく、教員と学生の双方向的なやり取りがある授業に満足度が高い
- ・学生からの問いかけや対話を通して学びが深まる

②カリキュラムの段階的な組み立てによる学び深化と柔軟的な履修による興味の喚起

提案：基礎から発展までを段階的に教え、学びの流れが分かるようにする

理由（学生の声）：

- ・基礎から発展までを順序通り教えてほしい
- ・科目選択の柔軟性があるほしい
- ・興味があるが、学べない内容は多いので、もっと新宿の科目など学べると良いと思う

③学ぶ意義や目的を明示し、学修の動機づけを行う

提案：科目間の繋がり（カリキュラムツリー）や、必修科目について、なぜ学ぶ必要があるのか説明を十分に行う

理由（学生の声）：

- ・なぜこの科目を学ぶのか、1年生では理解できず、2年生になってからわかることがあった
- ・どの科目が国家試験や仕事のどのようなことにつながるのか、知りたい
- ・必修科目が将来役立つのか分からない

④履修説明を充実させることで、科目履修の見通しを明確にさせ、納得感を持たせる

提案：授業や履修に関する説明を、より丁寧かつ明確に行い、科目間のつながりや学ぶ意義を具体的に示す

理由（学生の声）：

- ・「異分野入門科目」の2科目以上履修禁止について、他学科の分野も学びたいため、チーム医療を見据えて科目選択に柔軟性を持たせる
- ・入学後すぐにオンデマンドの抽選があり、よくわからないまま応募してしまったが説明が欲しい
- ・履修の説明をもっと丁寧に行って欲しい
- ・シラバスなどで「この科目に繋がります」とか、「この科目はこの科目の知識が必要です」などであると、もっとわかりやすいと思った
- ・「物理学」、「生物学」は学んでよかったと思ったが、何故学ぶのかよくわからない人も多いので、先輩のロコミ（来年こういうところで生きるのこの科目をとるとよい）のようなものがシラバスにあると良いと思う
- ・「生物学」は入学前教育で基礎から学ぶことができてよかった

⑤同一科目の統一性の確保と教員連携

提案：複数開講の科目は授業内容の統一性の確保と連携により、学修環境の一貫性と納得感の向上を図る

理由（学生の声）：

- ・同じ科目でも、担当教員によって、授業内容が違いすぎる

- ・同じ科目でも、内容や評価がバラバラだと、差が大きく、不満を感じる

⑥学習レベルに合わせたクラス編成による効果的なスキル向上

提案：「情報活用演習」は習熟度別にクラスを編成して情報活用スキルを効果的に上げる

理由（学生の声）

- ・「情報活用演習」は学習レベルに応じたクラス分けをしてほしい
- ・「情報活用演習」は難しく、パソコンに不慣れな人には負担が大きい
- ・「初心者のための情報」やPC操作の基礎から教える講座が必要。
- ・「情報」のプログラミングは難しいという一方、プログラミングを授業でやって欲しいという声もある。
- ・「情報活用演習Ⅱ」は、内容が理解出来ないまま、コピペで終わってしまう
- ・「英語」は入学時に受けたTOEICでクラス分けをしてはどうか

⑦授業の進め方やルールを明確化することで、理解度の向上を図る。

提案：授業や履修に関する説明を丁寧かつ明確に行う。また、ノートをとる時間を確保する。

理由（学生の声）：

- ・必修で学ぶ「英語」「国語」の目的を明示してほしい
- ・「分野横断科目」は学びの意味や目的を伝えてほしい

⑧教員による相互チェックによる授業の質向上

提案：教員同士で授業を参観・共有する仕組みを作り、良い授業を共有することで質の向上を目指す。

理由（学生の声）

- ・高校までであった研究授業のような先生同士で参観する取り組みなどを進める。
- ・「スポーツ・健康」、「心理学」は授業方法が面白いので、こういった「良い授業」を教員間で共有する機会を設ける

⑨スポーツや健康科目も重要な教養として維持する

提案：スポーツや健康科目も重要な教養として維持する

理由（学生の声）：

- ・身体を動かす科目がリフレッシュになった
- ・苦手だったスポーツが楽しいと感じられた

⑩BYODの推進によるPCの有効活用

提案：PCの活用を促す授業を行う

理由（学生の声）：

- ・購入したPCの有効活用を促進してほしい
- ・ノートPCではなく、タブレットでも良いか再検討してほしい

⑪課題やテストの分散による負担軽減

提案：テストの実施時期が学期末に集中しないようにする

理由（学生の声）：

- ・テストが学期末に集中するので、過度な負担がかかり、心身の不調につながる
- ・追試験手数料の金額が膨大

7-4. さいたま岩槻キャンパスの学生評価委員会からの提案によせて

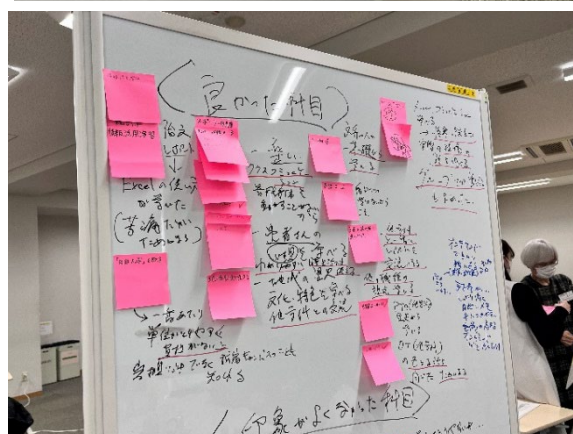
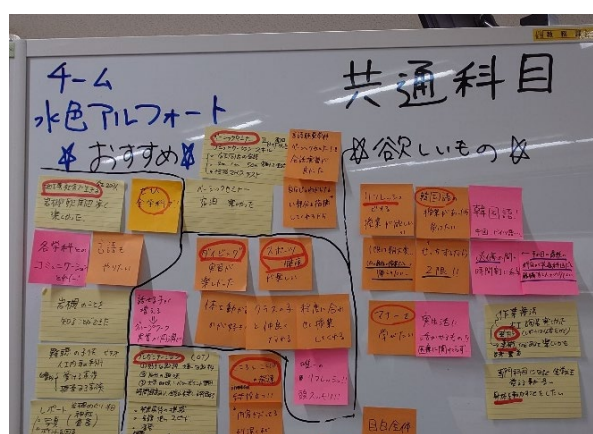
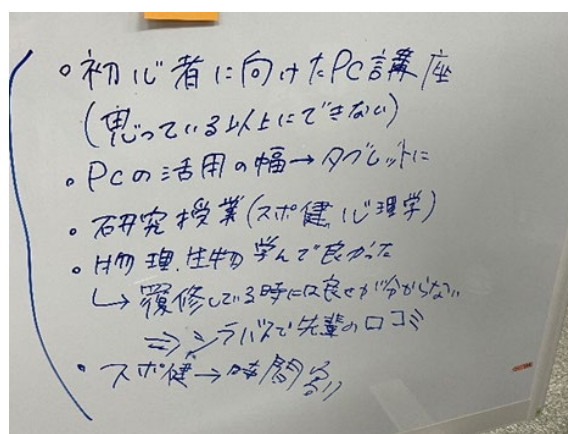
副学長 堤 千鶴子

教養科目に寄せられたご意見からは、医療現場に実際に触れる機会の充実や、他学科との連携・協働、実践的なスキルの習得を重視されていることが分かりました。具体的には、外部講師による現場の話、学科を越えたグループワーク、フィールドワーク型授業の拡充が求められています。また、医療に携わる多職種への理解や、ICT・英語といった実用的スキルの習得も、学生の成長を支える重要な要素と考えられています。

新設科目としては、医療制度や福祉に関する授業の充実に加え、対人スキルの向上や創作活動を取り入れた科目の導入が提案されました。授業方法に関しては、双方向型授業やグループワークの促進、段階的なカリキュラム構成、授業目的の明示といった改善が望まれています。さらに、履修説明の充実、科目間の統一性の確保、習熟度別クラス編成、PCの効果的な活用、課題やテストの負担軽減といった点も課題として挙げられました。

こうした多くのご意見は、学生の教養科目への関心の高さを示すものです。現状にはさまざまな課題がありますが、大学における学びは専門科目だけにとどまりません。学生の学びをより実践的で豊かなものとし、「大学で学ぶことの意義」を実感できるよう、いただいたご提案を今後の改善に積極的に活かしていきます。

7-5. さいたま岩槻キャンパス当日の様子





8. 今後の対応について

今回の大学への提案に対して、大学は回答及び具体策を検討し、大学学長及び副学長から回答書を学生評価委員会構成員への報告並びに全学生へ学生ネットサービス（学内イントラネット）で周知する。

9. 【総括】2024 年度（令和 6 年度）第 2 回学生評価委員会の活動によせて

学長 太原 孝英

2023 年度より正式に発足した学生評価委員会は、本学における内部質保証の一環として、学生のみなさんの声を直接、教育改善に活かしていく貴重な機会です。2 年目の今年度も、大変多くの学生の皆さんに学生評価委員として参加いただきましたことに、心より感謝申し上げます。

今回は、「学生が求める教養科目」をテーマに、新宿キャンパス・さいたま岩槻キャンパスのそれぞれで、まず事前アンケートを行い、それに基づいた活発な議論をしていただきました。その結果、授業内容に踏み込んだ要望や、新しい科目の創設等々、非常に多岐にわたる具体的かつ実践的な提案をいただきました。

特に印象的だったのは、共通科目について、このような分野を取り上げてほしい、あるいはこのことを詳しくやってくれる授業がほしい、など今後のご自身の将来に活かすための提案をしてくれた点です。PC スキルや英語、情報リテラシーなど、実用的なスキルの継続的な学びへの要望、グループワークや他学科との協働を通じた多様性理解など、こうした提案は、大学での科目ひとつひとつを、単に卒業するために必要な単位取得の方便としてではなく、自分自身を含めた学生全体に関わるものと考えてくださっていることの証で、非常に頼もしく感じました。

また授業目的の明確化やフィードバックの充実といった、教育の質を高めるための視点も数多く挙げられました。これらは、私たち教職員にとっても、教育方法や科目設計の見直しに大きな示唆を与えるものですし、科目の具体的な内容についても精査しなければいけないと感じました。

一方で、いただいた意見の中には、学生の立場から見た「わかりにくさ」や「納得のしづらさ」を訴えるものもありました。せっかく良い科目配置をしたとしても、教員が言うことが伝わっていないとしたら意味がありません。私たちは、こうした声に耳を傾けながら、具体的な授業改善はもちろん、大学としての理念や教育方針をより丁寧に学生に伝えていく必要があると改めて感じてました。

この委員会に出席してみて、この委員会が単なる意見交換の場にとどまらず、学生と大学がともにより良い学びの場を築いていく「対話の場」としての意義があることを、今年度も改めて実感しました。みなさんが活発に意見を出してくださるので、このメンバーで将来のことを考える授業などが行えたら、素晴らしいものになるのではないかとさえ思いました。

委員として参加いただいたみなさんの真摯な取り組みに敬意を表するとともに、本報告書にまとめられた提案を真摯に受け止め、今後の教育改善にしっかりとつなげていきたいと考えています。

次回の委員会も、さらに実りあるものとなることを期待しています。

以上